28日　木曜

マラキ

3:7 あなたがたの先祖の時代から、あなたがたは、わたしのおきてを離れ、それを守らなかった。わたしのところに帰れ。そうすれば、わたしもあなたがたのところに帰ろう。・・万軍の主は仰せられる。・・しかし、あなたがたは、『どのようにして、私たちは帰ろうか。』と言う。
3:8 人は神のものを盗むことができようか。ところが、あなたがたはわたしのものを盗んでいる。しかも、あなたがたは言う。『どのようにして、私たちはあなたのものを盗んだでしょうか。』それは、十分の一と奉納物によってである。
3:9 あなたがたはのろいを受けている。あなたがたは、わたしのものを盗んでいる。この民全体が盗んでいる。
3:10 十分の一をことごとく、宝物倉に携えて来て、わたしの家の食物とせよ。こうしてわたしをためしてみよ。・・万軍の主は仰せられる。・・わたしがあなたがたのために、天の窓を開き、あふれるばかりの祝福をあなたがたに注ぐかどうかをためしてみよ。
3:11 わたしはあなたがたのために、いなごをしかって、あなたがたの土地の産物を滅ぼさないようにし、畑のぶどうの木が不作とならないようにする。・・万軍の主は仰せられる。・・
3:12 すべての国民は、あなたがたをしあわせ者と言うようになる。あなたがたが喜びの地となるからだ。」と万軍の主は仰せられる。

「わたしのもとに帰れ」と言われる主に対して、素直に「はい」と従うのでなかく、「どのようにして…」と、言い訳のような理屈を優先させて、一向に自分自身を変えない姿が浮き彫りになっています。そこで主はささげものに関して、民が神様から離れていることを指摘し、その点においてでも「わたしのところに帰れ」るのだと言っておられます。

ネヘミヤ記を見ますと、祭司を養うべき十一献金をしない者が多いので、祭司たちが働きを全うできずに畑を耕し、その結果神殿の働きに支障をきたしたという事実がありました。神様は今も十分の一は「わたしのもの」として、私たちに預けておられ、それを感謝と信仰でお返しするように定めておられ、それによって神様のわざが進むのですから、十分の一をささげないということは、主のものを盗んでいるということになります。

「天の窓」からの「あふれるばかりの祝福」があるかどうか、「産物」が「不作であるか」方策であるか、それはこの献金によるのだということがわかります。

十一献金について知らなかった人は、それがクリスチャンの基準であることを知りましょう。十一献金をしていなかった人は、自分は十分の一の分を余計に預けられていたのだと知り、それを主にお返ししましょう。それは誰のためでもなく、「すべての国民」から「しあわせ者」と呼ばれるような、祝福をいただくためでもあります。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満たしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？